

# 東日本大震災の被災者支援活動 ～歌や運動、遊びの交流事業を通して～



東日本大震災の被災地で歌や運動、遊びの交流事業を企画運営することで、主に児童・高齢者の支援を行っています。

天満音楽祭でのライブ  
(福島県田村郡路での合唱ワークショップの動画を背景に)

## 活動の概要

目的	東日本大震災によって運動や交流の場が失われた方々の支援
連携メンバーおよび役割	南相馬市立高平小学校…活動の受け入れ 東日本大震災復興サポート協会…交流事業の企画に関する助言 福島大学災害ボランティアセンター…交流事業の企画に関する助言 / 交流事業の共同実施 天満音楽祭実行委員会…合唱を発表する場の提供 ソレイユ ミュージック ファクトリー代表 / シンガー / ヴォイストレーナー / ディレクター 中川誠十郎氏…ゴスペル講師、中川幸子氏…奏者 関西大学政策創造学部 橋口勝利ゼミ…交流事業の企画・運営、連携メンバー間の調整
活動地域	福島県
活動期間	2011年～(継続中)

## 連携の経緯

東日本大震災発生後、被災地支援活動を企画したスポーツニッポンの呼びかけで、橋口ゼミは深井麗雄ゼミ(当時)と共に、同支援活動の一環として被災地の取材と情報発信を開始。そして、取材活動の中で福島大学の教員や災害ボランティアセンターの関係者の方々と出会い、そこで児童が運動や遊びの場を失っているとの情報を得たことを受け、福島大学との連携企画や両ゼミによる独自企画に取り組むこととなった。

## 解決すべき課題

- (1) 震災によって児童や高齢者の方々が運動や交流の場が失われたこと



仮設住宅入居者との足湯を通じた交流活動

高平小学校体育館でのクイズ大会の様子

## 大学の役割

当初、深井ゼミと橋口ゼミは福島県内での調査活動を継続しつつ、福島大学ボランティアセンターが定期的を実施していた、仮設住宅入居者との足湯を通じた交流活動に参画した。交流の中では、橋口ゼミが京都府伏見区で日本酒振興プロジェクトにも取り組んでいたことから、齊藤酒造株式会社から提供を受けた酒粕パックを行うなど、独自コンテンツも生まれた。

さらに、福島大学の教員からの紹介で高平小学校での活動も始まり、運動や遊びの場が失われた児童の支援活動にも並行して取り組むこととなった。高平小学校との連携当初は体育館を使って巨大カルタ取りやクイズ大会を行い、遊びながら体を動かす企画に取り組んだ。

上記の活動を続ける一方、橋口ゼミは堺市内での震災避難者の支援活動を通じて、東日本大震災復興サポート協会の遠藤雅彦代表理事とも交流。遠藤氏の提案で、天満音楽祭に橋口ゼミが出演し、被災地の方々の思いを歌声と共に大阪に届ける活動に取り組むこととなった。その後、高平小学校での運動支援は合唱ワークショップに発展。ワークショップの様子は天満音楽祭で放映された。

2016年度からは高齢者支援と避難解除地域に戻った方々の支援の必要性に着目し、福島県田村市の集会所で合唱ワークショップに取り組んでおり、その動画は上述の天満音楽祭で放映された。

## 成果

- (1) 継続的に福島県内で各種交流活動を企画運営
- (2) 活動を通して得られた情報を大阪において発信

## 今後の展望

- (1) 時間経過とともに変化する被災地のニーズに合わせた支援活動の継続展開

## 研究者の紹介



政策創造学部 准教授  
橋口 勝利  
(はしぐち かつとし)

専門は地域経済史。ゼミのモットーは「企画力」と「行動力」です。地域では多くの出会いがあります。熱い気持ちで地域の課題に取り組んで、一緒に成長していきましょう。



合唱ワークショップの様子

## 現場の声

- ・中西恵利子 (政策創造学部3年生)

私達福島班は東日本大震災発生から6年が経過した福島県の現状の発信を活動の軸としています。

今年、福島県では避難指示区域が解除され少しつつ生活を取り戻される地域がある一方、まだ被災当時のまま手をつけられていない地域もありました。阪神淡路大震災では5年で仮設住宅が撤去され、10年でやっと復興したと言われていました。地震・津波・原発という被害を受けた福島県は6年たってもまだ復興途中で、これからも復興作業は続いています。世間の記憶から薄れつつあるこの震災に対して私達学生は、これからも関西の方々に発信していきます。